

(寄稿)

救急医療全体最適化のための解決方法 ～GEMITS とは～

3月11日午後に発生した東北地方を中心とする大地震にて、被災された方々には心からのお見舞いを申し上げますと共に犠牲となられた方々に対しまして哀悼の意を表します。

被災地の皆様の安全と、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

岐阜大学大学院 救急・災害医学分野教授 小倉 真治

2011年3月31日

Healthcare note

(No. 11-04)

岐阜県では県土の80%以上を中山間地が占めている。中山間地とは、農林水産省のホームページによれば「平野の外縁部から山間地」を指す。

このような地理的要因から病院搬送時間が長くなる傾向があり、重ねて医師不足や偏在により岐阜県での救急医療体制は低い水準にあると言われてきた。

この状況を改善すべく、岐阜大学は人材育成や搬送手段の整備等、様々な施策を実行し、結果、救急医療体制を本邦最高水準にまで進歩させることに成功した。

さらにその救急医療の水準を上げるのがITだ。

岐阜大学医学部附属病院高次救命治療センター長でもある小倉真治教授は、「岐阜県の例を日本の救急医療体制のロールモデルにする」という理念を掲げ、救急医療の質を高めるITシステムを開発している。

患者情報と応需情報のみならず、地域の救急医療体制全体にかかわる情報を一元管理するというこの取り組みは、救急医療体制の不備を解消する有望な切り札になるであろう。

本稿では、岐阜大学を中心に産学連携事業体で構築している新たな救急医療体制支援プログラム「GEMITS (Global Emergency Medical supporting Intelligent Transport System)」プロジェクトをご紹介します。

寄稿者名
岐阜大学大学院
救急・災害医学分野教授
小倉 真治

編集主幹
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
河添 麻美

野村證券株式会社
法人企画部